



環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：宗像国際環境会議実行委員会

活動地域：福岡県宗像市

常若（とこわか）の環境観光・地域づくり！

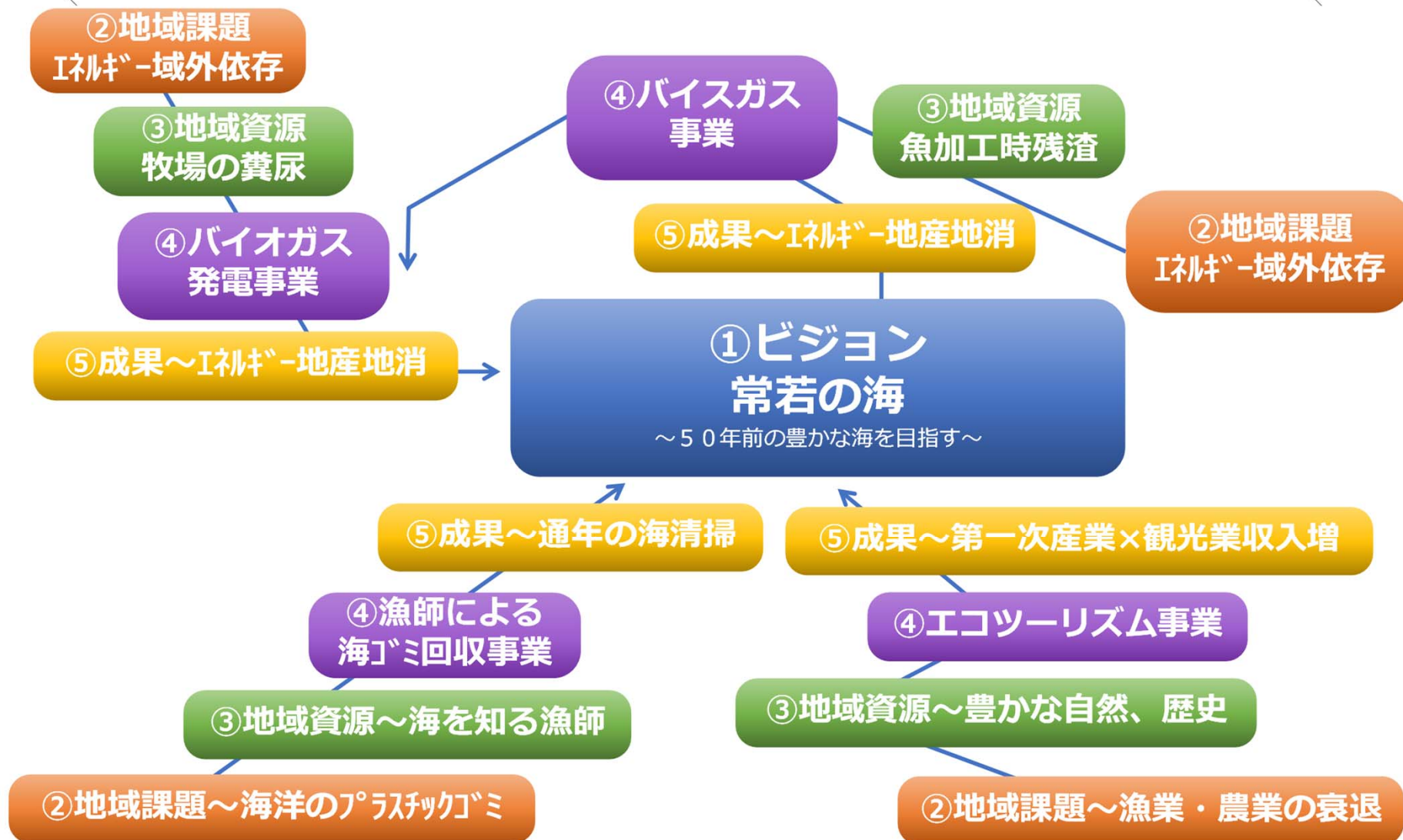




地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



宗像版地域循環共生圏 曼荼羅図



地域のビジョンを実現するための成果指標

「常若の海」～50年前の豊かな海を目指す～

漁師、海人（あま）が海で生業を続け、宗像を訪れ、かれらと交流していく中で、その生業を支える消費者が広がっていく。漁師一人一人が、自分たちの生業の海を守る取組みを始め、その行動が市民に、県民に、そして多くの人々に伝播していく。そして、常若の海に繋がる釣川、里山、源流の森で既に活動している環境保全活動とも、繋がり、その活動の輪が広がっていく。その活動を地産地消エネルギーが、企業が、そして市民が支えている。

短期目標

長期目標

環境

漁師による海ゴミ回収参加回数
令和2年度 2回

漁師による海ゴミ回収総量 ○トン
漁師による海ゴミからのリサイクル率 ○%

市内の牛糞尿の肥料化率
令和元年度 95%

市内の牛糞尿、食物残渣からの発電量
○キロワット

経済

漁船クルーズ・海女さん海藻おしば参加数
令和2年度 150名

エコツーリズム売上げ
○○○○万円

地域通過「常若通過」発行金額
令和2年度 100万円

地域通過「常若通過」域内加盟店
令和5年度 50店舗

社会

宗像国際環境100人会議のべ参加数
令和2年度 1,500人

宗像国際環境会議参画企業、団体数
令和5年度 30団体・企業

市民による釣川清掃参加者数
令和2年度 580人

海岸清掃など環境保全活動参加者
令和5年度 2,000人

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	牛糞尿を活用したバイオガス発電事業	
	事業の概要	市内の「すすき牧場」で飼育されている約2,000頭の牛から日々排泄される糞尿を使つての発電事業。宗像の地産地消エネルギーを推進し、外からのエネルギー流入を減らし、牛糞からスタートし、将来的には水産加工の工程で排出される食物残渣や飲食店からの食物残渣なども活用したい。現在、この事業の主体設立に向けて、出資者、金融機関への説明を行っている。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>すすき牧場は原料提供としての立場。事業主体は東京のエヌ・エス・ピーが「宗像バイオマス発電所」を設立。現在、事業資金の出資者を募集中。また、発電時の熱エネルギーの活用方法については、今後の検討事項。</p>
2	事業の名称	漁師による海ゴミ回収・リサイクル事業	
	事業の概要	宗像の漁港・鐘崎は日本海側の海女の発祥地であり、県下有数の水揚げを誇る漁業の町である。その巻き網船団の若手漁師が中心となり社会問題化している海洋プラスチックゴミ回収事業を立ち上げる。海流、季節風、海域のことを知り尽くした漁師達が、まずは漂着ゴミから始め、海ゴミを回収し、次にステップではその回収したゴミからリサイクルを行うビジネスを。休業リスク対策及び漁師が行動することで、社会への環境保全活動の啓蒙活動も換気していく。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>漁港内、海域によって、管轄が異なり、その調整と、事業開始における市、県、国（環境省、水産庁など）の連携が必要。そのため事務職体制。</p>
3	事業の名称	海の資源を活かしたエコツーリズム事業	
	事業の概要	海の生業に関わる漁師、海女さんなどが受け皿となって、「宗像海人族体感漁船クルーズ」「海女さんによる海藻おしげ体験」などの体験プログラムを実施する。更にゲストハウス、漁師食堂なども連携し、地域に経済が循環する体制を整備していく。遊漁船運営の漁師や、海女後継者として入っている地域おこし協力隊などがその担い手。	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>既存の観光協会では、新たな観光として期待されるエコツーリズムの予約システム、サポート体制などがとれないため、情報発信やマーケティング機能を受け皿となるとところが自ら行うか、DMO的な組織の立ち上げを待つかが課題に。</p>

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 「海の鎮守の森」構想という海の環境保全への構想段階から、3つの主要な事業への落とし込みが出来た。(その実施はこれからであるが)
- 宗像国際環境会議実行委員会というイベント的取組みの会議体組織から、3つの事業主体となる新たなステークホルダーも広げることができた。
- この事業に関わった専門家からのアドバイスにて地域の金融会社との連携を働きかけ、地域通過を実現することに繋がった。
- 市役所内の関係部署が、当初の秘書課から、環境課、水産課、企画(SDGs担当)課と広がってきた。

今後の意気込み

- 宗像国際環境会議の発信力を活かし(昨年度会議参加者937人、メディア関係39回)、更に今年は地元観光協会、商工会、JC、農協、漁協青年部、ロータリークラブも巻き込んだ展開に。
- 8月21日(金)~23日 第7回宗像国際環境100人会議開催。海外からも約30名参加予定。
- 常若通過(スマホによる地域通過システム)の拡充。

地域の活動の上での課題

- 成果指標については、3つの各事業体組織もこれから立ち上がっていく過程であり、具体的な数値目標までは落とし込みが出来なかった。
- 成果指標に数値目標の設定が難しいものがあるように、現状の数値の把握(海ゴミ総量)に、これまで以上のネットワークやステークホルダー、資金が必要なものがある。
また、今の法制度では、漁師による海ゴミ回収事業など、ビジネスの視点での事業化に対応できない部分も多い。